

酷暑を振り返って

校長 加藤 憲司

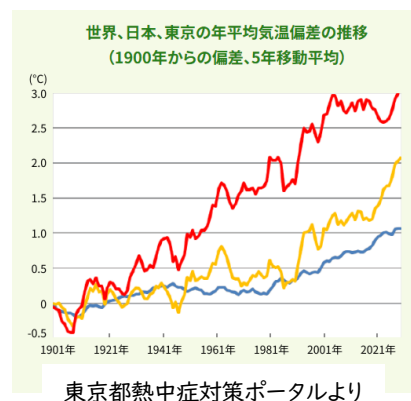
厳しい暑さもようやく和らぎ、少しずつ秋らしい爽やかな風が吹くようになってきました。

9月中旬からは、10月18日(土)の運動会に向けた練習が始まり、毎日元気な子供たちの声が学校中に響いています。特に、表現については、日を追うごとに上達し、友達とも息を合わせる姿も見られます。当日は子供たちの日頃の学習の成果をご覧いただき、子供たちを励ましていただきたいと思います。

さて、今年も夏も暑い日が続きました。気象庁は、今年の夏の記録的な高温を受け、最高気温が40度以上の日に名称をつけることを検討しているとのこと。これまで最高気温が25度以上の日は「夏日」、30度以上の日は「真夏日」、35度以上の日は「猛暑日」という名称がありますが、40度以上の日の候補として「酷暑日」があがっているそうです。さて、過去3年間の熱中症警戒アラートの月別の発表回数を調べてみると、以下のとおりでした。確実に回数が増えており、今年は8・9月が多かったことがわかります。また、右の表のとおり東京の年平均気温は、過去100年で約3℃の上昇がみられ、他府県の都市の年平均気温が1.5℃上昇していることに比べて大きく上昇しています。

<東京都における熱中症警戒アラートの発表回数>

	5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和7年度	0回	0回	13回	19回	8回	40回
令和6年度	0回	1回	19回	15回	2回	37回
令和5年度	0回	0回	11回	15回	0回	26回



こういった暑さの中、今年度の水泳指導は、例年通り6/16(月)から9/12(金)まで行いました。6月はほぼ毎日実施できましたが、7月下旬以降は、熱中症警戒アラートの発表等により中止することが多い状況でした。特に、夏季水泳指導は、十分に実施することができませんでした。次年度に向け、水泳指導の開始時期を早めることや、夏季水泳指導の在り方等、子供にとって安全な水泳指導期間について検討していきます。

水害から命を守るための防災教育の推進

近年、台風や線状降水帯等による影響で河川の氾濫や浸水の危険が高まっています。令和元年10月に発生した台風19号では、足立区にも大きな影響を及ぼし、荒川に近い本校では避難所が開設されるなど、引き続き危機管理の意識を強くもち、もしもの時に備えることが大切であると考えています。

今年度、足立小学校は足立区教育委員会の指定を受け、「あだち防災教育プロジェクト」を実施しています。9/26(金)にはプロジェクトの一環として、4年生を対象にした公開授業を行いました。当日は、足立区総合防災行政アドバイザーである松尾一郎氏をお招きし、水害への備えや避難行動について学びました。具体的には、実際の事例から水害の怖さを学んだり、タイムラインを実際に作成したりすることを通して、災害時に自分の命を守る行動について子供たち自身が考える機会となりました。



さて、10月26日(日)には、足立小学校を会場として地域の避難所運営訓練が行われます。今回授業を受けた4年生から平時に「訓練に参加する」という意見もありました。4～6年生には、自分の命を自分で守る「自助」に加えて、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の考えをもってもらいたいと願っています。各町会で案内があると思いますので、積極的に参加し、学んだことをより深めてほしいと考えています。